

# 新潟市老人憩の家なぎさ荘指定管理者申請者評価会議 公開プレゼンテーション議事録

日時：令和6年1月11日（木）午前10時30分～午前11時30分

会場：中央区役所 5階 対策室1

出席者：評価委員 高橋浩委員、田中秀明委員、中村健委員、浜浦久美子委員、平田春樹委員  
事務局 中央区健康福祉課

傍聴者：なし

（中村会長）

では、これより新潟市老人憩の家なぎさ荘指定管理者申請者プレゼンテーション及びヒアリングを開始します。申請者は準備ができましたら、プレゼンテーションを開始してください。

（新潟青陵学園A）

では、よろしくお願いたします。

私のほうからは事業計画書について説明させていただきます。

まず、今回の申請の動機についてです。現状を申し上げますと、本学園は2013年度から約10年近くにわたって、当該施設の指定管理を行ってまいりましたが、実際のところ、今年度末の指定期間満了をもって、指定管理業務を終了させていただく方向で学園内の承認を得ていたところではありました。

その理由としましては、少子化などの急速に変化する社会環境への対応なども考慮し、今後収入が見込めなくなっていくこともあり、得られた利益の有効化を図っていかなければいけない状況でございました。

また、限られた職員の中で求められる業務が多岐にわたっておりますし、人件費がかさむこともあり、職員の増員が見込めないという事情がございました。なぎさ荘の施設も老朽化が進んでおり、今後対応するための経費がかかっていく状況になってくると見込まれます。

今後の学園の運営の面もありますが、来年度につきましては新潟市からの要望を受けて、1年間に限るのですが指定管理業務を継続することとしたのが今回の申請の動機であります。

続いて、計画書の内容になりますが、現状コロナの影響が続いていることもありまして、本学園の学生との交流事業については多くの学生を動員することが難しくなっております。今後も細々と継続していくことしかできない状況にあります。

私のほうから事業計画書については以上となります。

(新潟青陵学園B)

私のほうから、収支計画書についてお話をさせていただきます。

まず、収入と支出の見込みのほうから説明させていただきます。

収入ですが、指定管理料として1,490万円という見込みをいただいているのでそちらを記載させていただきました。続いて入浴利用料金収入ですが、こちらは35万円としています。コロナの時は収入が少なかったですが、通常時は年間30万~40万円の年間の利用料金収入がありますので、35万円ということで見込みを記載させていただいております。

その他の収入として、預金利息として40円を計上しています。収入全体としては、15,250,040円と見込んでおります。

続いて、支出です。人件費ですが、管理人報酬については例年この額で収まることが多いので同じように記載させていただきました。また、新潟青陵学園の事務職員の人件費分も支出させていただくということで125万円を計上させていただいております。合わせて8,014,100円を記載させていただいております。

管理費、事務費、事業費ですが、例年決まった額の支出となりますのでそれぞれ記載の額で計上しております。

よって、収支差額0円とさせていただいておりますが、恐らく残額が発生すると思うので、利用者に還元するように使っていきます。

続いて、支出の明細についてですが、説明が必要な箇所のみ簡単に説明いたします。

管理費の水道光熱費についてですが、国の補助がある前提で記載させていただいております。仮に国の補助がなくなると、1-2月を45万として計上させていただいておりますが、恐らく倍近くの額になろうかと思っておりますので、そうなる赤字となる可能性があります。

修繕費ですが、4月に40万円、5月に20万円と多めに計上させていただいております。現在ポンプの水漏れが発生してしまっていて、今日は稼働を停止しているのですが、それを修繕しないと1年間管理運営ができないと思っておりますので、それを直すために4月に40万円を計上しております。5月につきましては、電灯が古くてつかなくなってしまうなどいろいろ発生しておりますので、20万円を計上させていただいております。

収支計画書については以上となります。

(中村会長)

ありがとうございました。それでは、ヒアリングに移りたいと思います。ただいま説明のございましたプレゼン内容や申請者からの提出書類を踏まえまして、質問はございますでしょうか。

(田中委員)

まず、人件費の関係で、事務職員さんの報酬を今年からつけるということでしたが、今までは指定管理料に入っていなかったのでしょうか。

(新潟青陵学園B)

事務職員の報酬については計上せず、学園事務と一緒に管理運営事務を行うことになっていましたよ。

(田中委員)

それから、ガスの赤字という話なのですが、赤字になった場合は全部受託者である学園のほうで、負担していたのでしょうか。

(新潟青陵学園B)

赤字になったことが、過去3回あるのですが、新潟市と協議して補填をしていただいております。

(田中委員)

それから、学生さんたちの学習の場としてこられたというご努力があると思いますが、この1年が終わった後、教育の関係では代替措置として、別の場所でそういった活動を実施するのか、なぎさ荘をほかの団体が受託すれば活動は継続していくのか、そのところはどのように考えているのでしょうか。

(新潟青陵学園A)

現在、当学園が指定管理をやめた後のことは検討しておりません。

利用者の方が高齢でありますし、健康管理の面からも、学生がまだ関与することに不安が残る状況で継続が見込めないところなのですが、もし今後施設が存続となって交流の場が持てるのであれば、お声かけさせていただくこともあるかと考えております。

(田中委員)

当面はちょっと難しいということですね。

(新潟青陵学園A)

まったく0ということではないと思いますが。

(田中委員)

教育環境として利用できる場所であったと思うのです。報告を見ると。

なくなるとどうなのかなと思ったり。

(高橋委員)

収支計画書についてです。支出のほうで事業費（自主事業）として、消耗品費179,000円を計上していると思います。以前いただいた資料を見ると、令和2年度までは事業費（自主事業）は88,000円でカラオケのリース料とのことでした。令和3年度、4年度と0円だったと思いますが、今回計上した事業費に対する事業の内容についてお聞かせください。

(新潟青陵学園B)

協定書上、入浴料金のうち半分を自主事業に充てることとなっております。今のところ何を購入するかというところは未定となっておりますが、その関係で計上しています。

今まで、カラオケのリース料を払っていましたが、コロナになってから一切できなくなってしまい0円となってしまいました。今は利用者が機器を持ち込んでカラオケを行っておりまして、そこについては支出は一切かからない状況です。

(高橋委員)

現状、自主事業として何をするのかというところは。

(新潟青陵学園B)

何かしらやるかもしれませんが、何にいくら使うかということは決めていません。

(新潟青陵学園A)

今のところほとんどお金をかけない形でやっておりました。

(高橋委員)

自主事業による収入は0円ということですか。

(新潟青陵学園A)

自主事業に関してはないです。

(中村会長)

事業計画の利用促進に向けた取り組みについてですが、血圧測定やボランティア活動を行っていますとか、大学・短大・高校・幼稚園との交流行事というのが出てきます。

こういう取り組みは青陵学園さんの特色なのかなと思っていまして、令和6年度も実施していただければと考えています。

学生によるボランティア活動の具体例を、これまでの実績でいいですので教えていただきたいです。

(新潟青陵学園A)

内容としましては管理業務の補助することが主となっていて、例えば、窓ふきですとか天井のほこり払い、庭の手入れなどをさせていただきました。

その中で、利用者の方との交流を図ってきました。

(中村会長)

血圧測定は利用者さんに結構喜ばれているものなのでしょうね。

(新潟青陵学園A)

楽しみにされているようなお声も聞きます。

(中村会長)

血圧を測ってもらうとことで自分の状態を理解するというよりも、若い学生さんと交流できることが楽しみとされているのかなと思います。そのような点も非常に評価できる点であるのでぜひ継続してもらえるとよいのかなと思います。

(中村会長)

また、過去の利用活性化の取り組みについて報告を受けているのですが、令和4年度に在宅システムコーディネーターによる利用者への聞き取りを70回行ったということですが、どういった取り組みなのでしょう。また、来年度実施する予定があるかどうかについてもお聞かせください。

(新潟青陵学園A)

社会連携センターという部署がありまして、そこに1名看護師の免許を持っている者がおり、約2年程度なぎさ荘のほうで利用者の方の健康状態の聞き取りを行いながら、社会連携のきっかけとさせていただいておりました。

その職員が退職してしまいまして、現在は非常勤として勤務しているのですが、今のところ本事業を再開することについては見込みが立っておりません。

(中村会長)

もう1点お願いします。1月1日に大きな地震がありまして、幸いなぎさ荘は被害がなかったと聞いております。申請書は地震前に記載したものだと思いますが、地震があったことで災害時の対応ですとか、維持管理など今後の対応について今回の申請書にないことで考えていることはありますでしょうか。

(新潟青陵学園B)

昨日、管理人からヘルメットとか備蓄品を全く置いていないので購入しないかという相談を受けまして、購入を検討しております。

(浜浦委員)

おそらくコロナというところで、活動も大変だと思います。こちらの包括支援センターも高齢者施設の中にあるので、コロナでストップした状態というのはあります。

高齢者施設ならではの制限はあると思うのですが、アフターコロナというところでこの現状は変わらないと思います。学生さんとか高齢者に気をつかうと思うのですが、アフターコロナの中でも交流できる取り組みや方法についてこれまで検討は行ってこられたのでしょうか。

(新潟青陵学園A)

検討については行っていなかったところなのですが、学生の研究ですとか授業の一環として携わらせてほしいということで関与してきたところです。

ただ、以前ほどの活発さというのは失われてきたというところはございます。

(浜浦委員)

施設としてのコロナ対策というのは何かされているのでしょうか。

(新潟青陵学園A)

体温測定だとか、手指消毒というのはしておりました。今はアフターコロナということもありますので、ある程度緩和されたところもあります。また、コロナ禍においてはサークル活動を休止していたのですが、本年度6月から再開し、少しずつ以前の状況に戻りつつあります。

(浜浦委員)

利用者さんは若い学生さんとのかかわりを非常に楽しみにされていると思います。お家だと一人で一日誰とも話さなかったなんてこともあると思うので、そういう取り組みができるのであれば、コロナ対策を引き続き行いながら、ぜひ行っていただきたいと思いました。

(中村会長)

ありがとうございました。これにて、ヒアリングを終了としたいと思います。

申請者は退出をお願いいたします。